

成長志向の貧困削減を通じた MDGs 支援を
日本の ODA とアジア
*Supporting MDGs through Growth-Driven Poverty Reduction
Japan's ODA and Asia*

1. 近年の国際開発潮流

- ・ 貧困削減・援助協調の重視
 - 世銀 包括的な開発フレームワーク(CDF)/貧困削減戦略書(PRSP): 98/99年～
 - 国連ミレニアム開発目標(MDGs): 2000/01年～
 - テロリズムと貧困のリンク: 2001年9月11日
- ・ 米国、EUによるODA増額の宣言
- ・ 世界トレンドの中で日本は追随者・傍観者(または反発...)

2. MDGs 取組みの意義

- ・ 重要な開発課題の国際的共有: 象徴的意味
- ・ ドナーの援助疲れへの歯止め
- ・ 他方、実施面では課題残す
 - いかにおペレーショナライズするか?

3. MDGs/PRSP と日本

- ・ MDGs を日本の ODA 改革推進の機会として活用すべし
- ・ 国際潮流への積極関与の機会とすべし
- ・ 特にアジアのコンテクストにおいて、日本の役割は決定的に重要
 - リード・ドナー
 - 多様な支援スキームの組合せ(グラント、ローン、TA)

4. アジアにおける MDGs/PRSP

- ・ 対象国のギャップ
 - MDGs(全途上国が対象) > PRSP(IDA 融資対象、最貧国): 中国、インドの扱い?
- ・ PRSP 対象国においても、アジアでの本格化はごく最近(例外:ベトナム)
 - アフリカや中南米の先行例の教訓を生かした実施を
 - アジアの開発経験に基づき現行アプローチを改善する機会に

5. アジアの視点

- ・ 先行例との相違点の認識
 - 債務救済とのリンクの有無
 - 発展段階、国際金融システムとの関係
 - 援助協調の歴史(新しい援助モダリティ、既存の開発計画との関係の関係など)
- ・ 成長を通じた持続的な貧困削減(特に東アジア)
 - 1990年代に貧困半減を達成(MDGs/PRSP 導入の前)
 - 民間の貿易・投資リンクを通じた発展
 - 地域レベルの生産ネットワークの構築(国レベルに留まらない)
- ・ MDGs/PRSP を超えた開発課題にも要対応
 - 現行の「狭い」貧困削減アプローチだけでは不十分

6. ベトナム政府の取組み

- CDF・PRSP パイロット国、アジア初の経験
 - Full-PRSP(2002年5月首相承認)、ベトナム開発指標(VDTs)を設定
- 高い国際的評価 “Good Practice”
 - 強いオーナーシップ、既存のベトナム政府の開発ビジョンに準拠(10ヵ年戦略、5ヵ年計画)
- 成長志向: 「包括的な貧困削減・成長戦略」書 (“Comprehensive Poverty Reduction and Growth Strategy: CPRGS”)
 - 東アジアのキャッチアップ願望(国家目標は2020年までの「工業化・近代化」達成)
 - 「公正なる成長」への配慮
 - 持続可能な貧困削減努力への配慮(ODA、民間資金、国内貯蓄の動員)

7. 新しい潮流?: ポスト・モントレイ

- WSSD(ヨハネスブルグ・サミット)2002年8~9月
 - 東アジアの開発経験に対するアフリカ諸国の関心: 川口外務大臣による IDEA の結果報告(外務省セミナー)
 - ジェフリー・サックス教授の主張: アフリカ開発にも貿易・投資促進による成長戦略を(経産省セミナー)
- IMF・世銀総会(ワシントン)2002年9月
 - 「成長と貧困削減の源泉として貿易の重要性」を再確認(合同開発委員会)
- アフリカにおける次ラウンドの PRSP を睨んだ動き
 - PRSP から“PRS”へ
 - 成長関心追加の願望(“scaling up growth and spreading benefits”)

8. 将来の展開

- 成長を通じた貧困削減、特に貿易・投資アジェンダへの関心復活
- 成長戦略の中身にかかる議論が顕在化? (「東アジアの奇跡」(1993年)以来)
 - “Framework vs. Ingredient”アプローチ(柳原教授)、産業的関心
 - グローバル化時代の貿易・産業開発に対する政府の役割

9. 日本の ODA への示唆

- 日本が欧米型を補完し、現行の MDGs / PRSP アプローチを改善する好機
- ただし、日本の ODA 改革が必要(現在、日本政府は改革に取組み中なるも…)
 - 国別アプローチの強化
 - 開発支援の「マルチ化」(パートナーシップ促進、特に成長戦略支援)
 - 現場主義
 - 知的ネットワークの強化
 - “Core Competence”に基づく援助リソース配分の「選択と集中」、及び新援助モダリティ議論への積極的参画

10. 提言

- まずアジアから始めよ(以下を契機にして)
- アジアにおける PRSP 実施本格化(インドネシア、カンボジア、ラオス、バングラデシュなど)
- 「国別援助計画」改定・策定の動き(ODA 総合戦略会議/ベトナム、スリランカ)
- 日本政府による対外イニシアティブの活用(例示)
 - 外務省: IDEA、TICAD3

- 財務省: 日本と世銀の連携強化
- 経産省: 東アジア型の貿易・投資を通じた開発支援検討「アジアダイナミズム研究会」
- ・ アジアの開発経験の整理・共有(アジア・アフリカの南南協力も含め)

【参考】 GRIPS 開発フォーラムの活動

全般

- ODA 総合戦略会議への参画
- 経済協力二分論の提案
- 東アジアの開発・協力経験の整理と発信
- PRSP・パートナーシップ活動への助言、グッドプラクティスの整理と発信
- 内外の開発関係者との知的ネットワークの構築

ベトナムを事例とした国別アプローチ強化への支援

- 国別援助計画に対する助言
- 成長パートナーシップの促進
- 貿易・産業開発支援
- PRSP 事例研究

詳細はウェブサイトをご覧下さい。

- 日本語 <http://grips.ac.jp/forum/>
- 英語 <http://grips.ac.jp/forum-e/>

以上